



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

見えざる世界との対話

先月号で、生まれ変わりについての話をしましたが、今月号はその続きです。生まれ変わりというのは、アメリカでは周期的にブームになっているようです。近年のブームは女優のシャーリー・マクレーンが自身の神秘的な体験を『Out on a Limb』（アウト・オン・ア・リム）と題して発表し、それが世界的なベストセラーとなっただけです。私も読みましたが、私が強く生まれ変わりに興味を持つようになったのは、この本の数年後に出版された精神科医ブライアン・レスリー・ワイズ博士の著書『Many Lives, Many Masters』（前世療法）を読んだからです。この本は全世界で200万部のベストセラーとなりました。



ワイズ博士は名門コロンビア大学を優秀な成績で卒業し、イエール大学大学院で医学博士号を取得されました。ワイズ博士は特別な体験をされたのですが、科学者としての立場を考えてそれを発表するのをずっと躊躇していました。何年も悩んだ末にある日、天からの啓示を受けましたように、この事実を多くの人々に伝えなければと強く感じ、『前世療法』を出されたのです。

ワイズ博士は一般的な治療法のほかに催眠術を用いて患者の治療を行っていました。特に「退行催眠」と呼ばれる手法を使い、患者を過去の記憶へと導いていくのです。

《キャサリンの症例》

ワイズ博士は、退行催眠によって多くの患者の幼少期のトラウマを探り、それを癒すことで症状を改善するこ



とに成功せいこうしていました。

ある日ひ、キャサリンという病院びょういんの検査技師けんさぎしの女性じよせいが来院らいしました。彼女かのじよは不安感ふあんかん、恐怖感きょうふかん、強迫観念きやうはくかんねん、うつ病びようそして悪夢あくむに悩んでいました。従来じゅうらいの精神療法せいしんりょうほうでは一向いっこうに良くならないキャサリンに対してたいワイズ博士はくしは退行催眠たいこうさいみんを試みしました。キャサリンは深い催眠状態さいみんじょうたいに入り、普通ふつの意識状態いしきじょうたいでは決して思おもい出すことの出来ない数々かずかずの出来事できごとを思おもい出し始めました。子どもこどもの時に飛び込み台とびこみだいの上うへで後ろうしろから押おされて水みずの中に落ち、溺おぼれて息いきが出来できなくなつたこと、歯医者はいしやに行いった時にガスマスクを顔かおの上うへにのせられて、びっくりして息いきが詰つまった時のこと等などを思おもい出だしました。そして、一番悲惨ばんひさんな出来事できごととして、3歳さいの時に酒さけに酔よった父親ちちおやからいたずらをされたことを思おもい出だしました。その時とき、父親ちちおやは彼女かのじよが騒さわがないように、大きな手てで彼女かのじよの口くちをおおひ、そのためにキャサリンは



息いきが出来できませんでした。これでキャサリンが極度きくどに息いきの詰つまるのを恐おそれていた理由りゆうがわかり、他の症状しょうじょうもすぐに改善かいぜんされるだろうとワイズ博士はくしは考えかんがえました。しかし、キャサリンの症状しょうじょうは一向いっこうに良よくなりませんでした。

そこで、ワイズ博士はくしはキャサリンの潜在意識せんざいいしきの深い所ふかにまだ隠かくされた精神的な傷きずがあるに違ちがいがないと思おもい、再びキャサリンに退行催眠たいこうさいみんをかけ、深い催眠状態さいみんじょうたいに導みちびきました。この時とき、ワイズ博士はくしは「あなたの症状しょうじょうの原因げんいんとなった時期じきまで、戻もどってください」と大ざっぱに指示しじしました。すると、キャサリンはなんと4000年前ねんまえの古代こだいの中近東ちゅうきんとうの人生じんせいにまで戻もどったのです。彼女はその時代じだいのことをまるで今見いまみているかのように詳しく語かたりました。さらに、「古代ローマ時代こだいにも生まれていた」と語かたり、その時ときに勉強べんきょうを教おしえてくれた先生せんせいがワイズ博士はくしだったと言いうのです。こうした前世ぜんせの記憶きおくを思い出おもすたびに、彼かの



女の症状は改善していき、2、3カ月経つと完全に治つてしまいました。

ワイズ博士は当初、ギヤサリンに起こっていることは幻想や夢ではないかと疑っていました。しかし、4回目から回目の退行催眠の際にそれが真実であると確信し始めた頃、またしても不思議な出来事が起こったのです。

古代の過去世に戻ってその人生の死を再体験した後、ギヤサリンは自分の死体の上を漂っていました。その後、彼女は人生と人生の間に通過する中間世で出会う霊的な光の方へ、引き寄せられていきました。そして彼女はわがれ声で「神は私達一人ひとりの中に存在するのだから、無数の神があると言っているわ」と語り始め、さらに彼女は「ワイズ先生、あなたのお父さまと小さな息子さんがここにいます」と語り、ワイズ博士の家族に関する



ることを語り出しました。

「『アブロムという名前を言えばわかるはずだ』とあなたのお父さまは言っています。お嬢さんの名前はお父さまの名前からとったそうですね。また、彼は心臓の病気で死んだのです。息子さんの心臓も大変でした。心臓が鳥の心臓のように逆さになっていたのです。息子さんは愛の心が深く、あなたのために犠牲的な役割を果たしたのです。彼の魂は非常に進化した魂なのです。彼の死は、両親のカルマの負債を返しました。さらに、あなたに、医学の分野にも限界があること、その範囲は非常に限られたものであることを、彼は教えたかったのです」

ワイス博士がこの時のことを語っています。

「私は霊的な海を泳いでいるような思いがした。水は心地良かった。鳥肌が立つ思いだった。こうした情報をキヤサリンが知っているはずがなかった。どこかで調べる



ことができるようなことでもなかった。父のヘブライ名、
1千万人に一人という心臓の欠陥のために死んだ息子の
こと、私の医学に対する不信心、父の死、娘の命名のい
きさつ、どれもあまりに個人的なプライバシーに関する
ことがら
事柄ばかりだった。しかも、どれも正確だった。この何
も知らない検査技師の女性性は、超自然的な知識を伝える
導管なのだ。もし、彼女がこんな事実を明らかにできる
のであれば、他にどんなことがわかるのだろうか？私は
もっと知リたかった。私は言った。『誰がそこにいるの
ですか？誰がこんなことをあなたに教えてくれるのです
か？』『マスター達です』とキャサリンは小声で言った。
『マスターの精霊達が私に教えてくれます。彼らは私が
肉体を持って86回、生まれていると言っています』
ワイス博士はこの後、キャサリンを通して何回となく
マスター達の言葉を受け取っています。そこから二つ紹



介かいします。まず、高位こういのマスターからの言葉ことばです。

「大切なことたいせつは忍耐にんたいとタイミングだ。すべてのことには時ときがある。人生じんせいを焦あせってはならぬ。人生じんせいは多くの人々ひとびとが期待きたいするように、うまく予定通りよていどおにいくことはない。したがって、人ひとはその時々ときどきにやってくるものを受け入れ、それ以上いじょうを望のぞまない方がよいのだ。命いのちには終りおわりがない。そして、人ひとは決して死しなないのだ。新たあらに生まれるといううことも本当ほんとうはないのだ。ただ異なるいくつもの場面ばめんを通り過すぎていくだけなのだ。終りおわりというものはない」

次つぎは低位ていいのマスターからの言葉ことばです。

「お前達まえたちは、強欲きやうよくを克服こくふくすることを学まなばなければならぬ。もしもそれができなければ、それは次つぎの人生じんせいに持ち越もされる。そしてその重荷おもには、ますます大きくなっている。一回かい一回かいの人生じんせいで借かりを返かえしておかなければ、後のちの人生じんせいは、ますます困難こんなんなものとなるだろう。どのような



人生を送るかは、お前達が自分で選択しているのだ。だからお前達は、自分の人生に100%責任がある。自分で選択しているからだ」

そして、最後の退行催眠の時、キャサリンを通して高位のマスターからワイズ博士にメッセージがありました。「我々がお前に話しかけるのもこれが最後だ。これからはお前が自分の直感で学ばなければならない」

ワイズ博士はこの後、直感力が強くなり、患者や同僚や友人が秘かに隠していることにも敏感に気づくようになり、何も聞かなくても、彼らのことがわかるようになったそうです。

また、ワイズ博士は人生の一部としての生と死の深い意味を知ることによって、忍耐強くなり、以前より人に優しく愛情深い人間となることができたと言っています。さらにこの後、ワイズ博士は鮮明な夢の中で別のマスタ



ーから講義を受けるようになったそうです。

『前世療法の広がり』と社会的反響

『前世療法』はキャサリンに関する話ですが、『前世療法2』では他の多くの患者の事例が紹介されています。しかし、すべての人が過去世まで到達できるわけではなく、被験者のおよそ3〜5%のみがその体験を得られるようです。

ワイス博士はこの著書によって一躍有名になり、フロリダの講演会には何千人もの人が詰めかけ、会場に入り切れないほどだったそうです。テレビ番組に出演した時には、テレビのスタッフが「この場で退行催眠を演演してほしい」とワイス博士に依頼しました。これに対してワイス博士は、「退行催眠は非常に個人的な内容であり、プライバシーに深く関わるものです。テレビ放送の場で



行^{おこな}うべきではありません」と断^{ことわ}りました。それでもキャスターが「私^{わたし}にぜひやってください」と強^{つよ}く希望^{きぼう}したので、ワイズ博士^{はくし}は退行催眠^{たいこうさいみん}を行いました。数^{すう}%の人^{ひと}にしか成功^{せいこう}しない退行催眠^{たいこうさいみん}がうまくいって、キャスターはあつという間^まに、二つの過去世^{かこせ}を見たのです。

一つは、何百年^{なんひゃくねん}も前にフランスで木こり^{まき}として生^いきていた時^{とき}の記憶^{きおく}でした。もう一つは、アメリカ南西部^{なんせいぶ}でインディアン^{イン}だった頃^{ころ}の記憶^{きおく}です。インディアン^{イン}だった時^{とき}の過去世^{かこせ}に戻^{もど}ると、彼^{かれ}は自然^{しぜん}との一体感^{いつたいかん}について語^{かた}り、その人生^{じんせい}が終^おわる時^{とき}、とても平和^{へいわ}な気持ち^{きもち}で死^しに移^い行^{こう}し、死^しも自然^{しぜん}の過程^{かてい}の一環^{いつかん}だと語^{かた}りました。テレビ局^{きく}のスタッフ^なは、この成^なり行^ゆきにびっくりしました。というの、キャスターは今世^{こんぜ}でも、余暇活動^{よかかつどう}として、森^{もり}に入^{はい}って木^きを切^きることをとても好^{この}んでいたからです。フランスで木^きこりをしていたことは、彼^{かれ}の今世^{こんぜ}にも非常^{ひじょう}によく合致^{がっち}し



ていたのです。そしておもしろいことには、インディア
ンとなって彼が自然や死について語ったことは、現在の
彼とは、およそかけ離れた発言で、現在の彼ならば決し
て口にしないようなことでした。

この番組の反響はとても大きく、数日間、地方ニュー
スで続けて放映されたということなのです。
生まれ変わりの話は次回も続きます。

